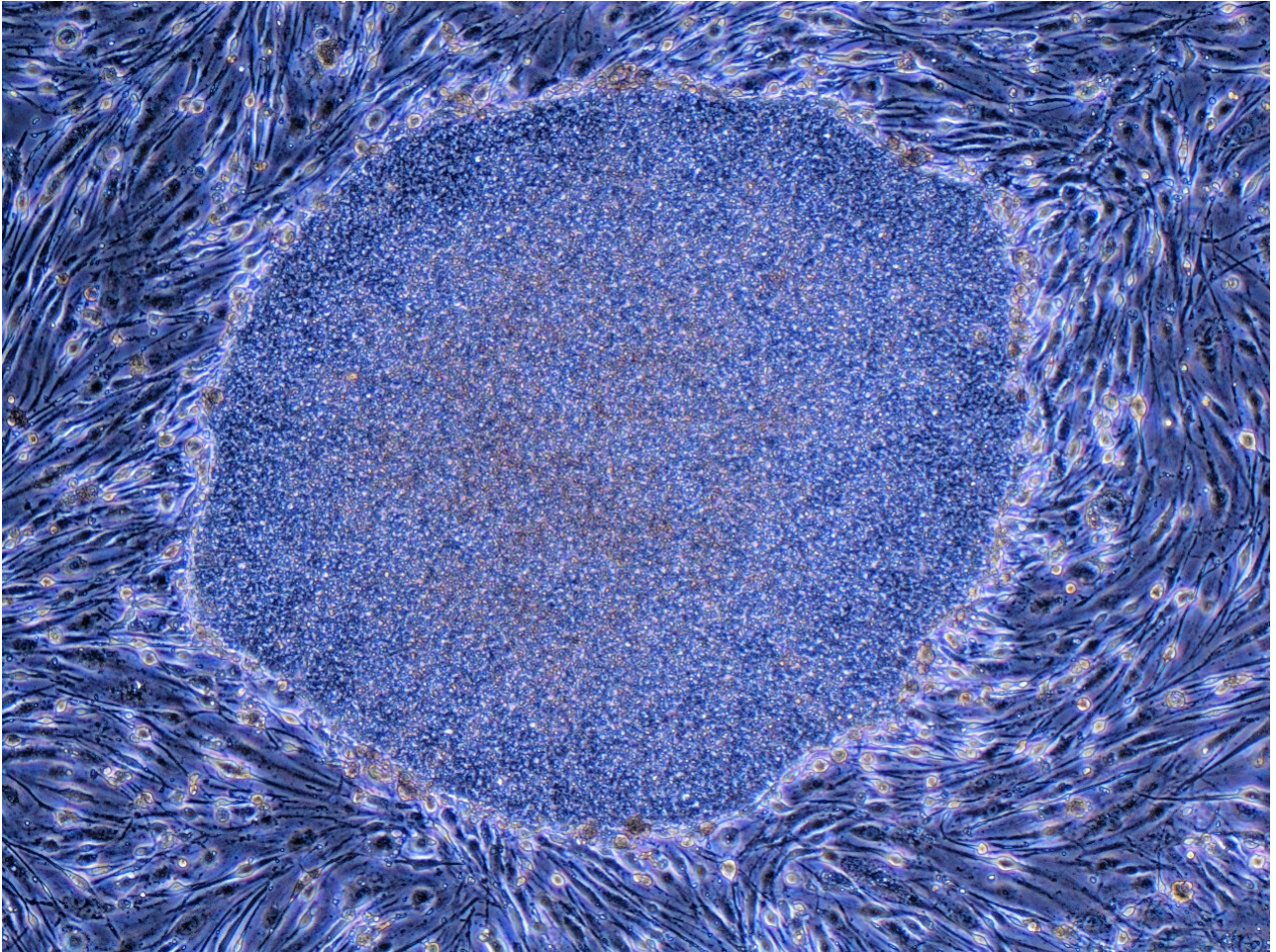


# 朝日新聞

## 世界初のiPS細胞治療、対象は少数でも患者が抱く「かすかな希望」

2026年3月6日 10時50分  有料記事

神宮司実玲



線維芽細胞から樹立したヒトiPS細胞の集合体。集合体の幅は約0.5ミリ=山中伸弥・京都大教授提供 

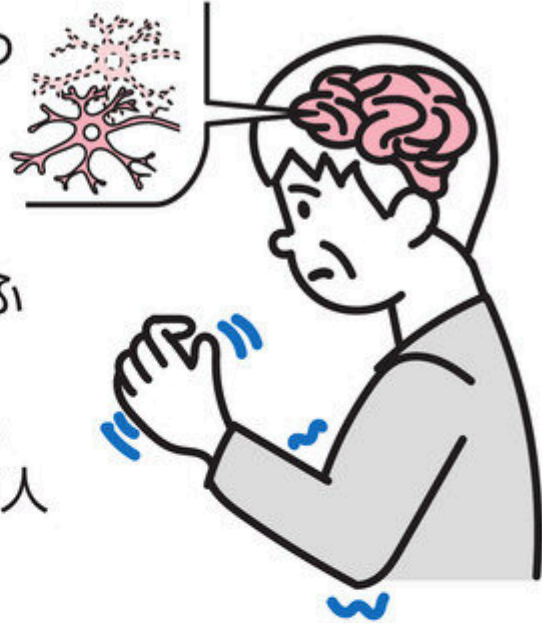
iPS細胞を使った再生医療製品が世界で初めて日本で実用化されることになった。承認された二つの製品のの一つは、国の指定難病「パーキンソン病」の治療に使われる。国内の患者数は約25万人。進行性の病気と向き合う人にとって、新しい治療法の登場は心の支えにもなる。

### 4年前診断、病気が「次のステージに」

パーキンソン病は、ドパミン（ドーパミン）をつくる脳内の神経細胞が減り、手足が震えたり、体が動きにくくなったりする神経の病気。脳にドパミンを補充する薬物療法があるが、しばらくすると薬が効きにくくなる。

## パーキンソン病とは

神経伝達物質ドパミンをつくる神経細胞が失われる



### 主な症状

動作が遅くなる、手足のふるえや、筋肉のこわばり

- 50歳以降の発症が多い
- 国内の患者数は約25万人

### 治療法

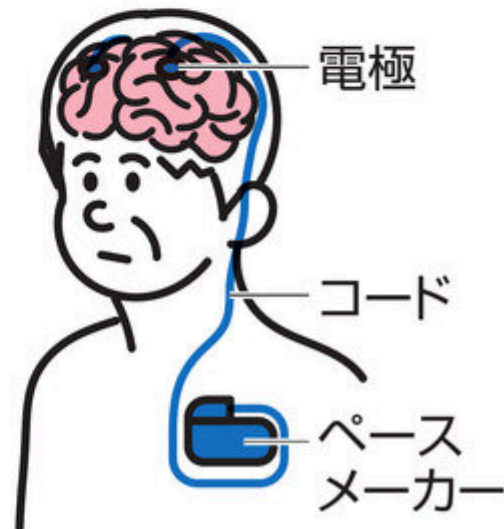
ドパミンを増やす  
薬物治療



薬が効きにくくなったら

### 脳深部刺激療法 (DBS)

脳に電極を入れて、体内に埋め込んだペースメーカーで電気刺激を与える



パーキンソン病の症状と治療 

大阪府の男性（73）は4年前にパーキンソン病と診断された。顔や上体が下を向く前傾姿勢になってしまうなどの症状があった。薬を始めて2年ほどは症状が落ち着いていた。だが、いまは病気が「次のステージに入った」ように感じている。

薬の効く時間が短くなってきて、2025年秋ごろから、歩き出そうとするときに足がうまく動かず上半身だけが前に出て倒れそうになる「すくみ足」や、悪夢を見るといった睡眠に関する症状が出ることもある。

ドパコール配合錠L100	1日4.5錠
ドンペリドン錠10mg「JG」	1日3錠
【内】 毎食後	56日分
エクフィナ錠50mg	1日1錠
【内】 朝食後	56日分
ロピニロール徐放錠8mg「サワイ」	1日1錠
ロピニロール徐放錠2mg「トーワ」	1日2錠
【内】 夕食後	56日分
エゼチミブ錠10mg「DSEP」	1日1錠
【内】 朝食後	56日分
ビオフェルミン錠剤	1日3錠
【内】 毎食後	56日分
ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）	1日15g
【内】 毎食間	56日分

パーキンソン病の治療をしている男性のおくすり手帳。脳内のドパミン不足を補う薬などをのんでいる=男性提供 

## 自分の体「あやつられているような感覚」

逆に薬が効きすぎると、自分の意思と関係なく手足がくねくね動く「ジスキネジア」と呼ばれる副作用が出ることもある。

「自分のからだであって、自分のからだでないようだ」


加齢によるものか病気か区別がつかず、病気の実態がつかみにくい。自分の体があやつられているような感覚が続いている。それが一番つらい。

日々の症状を記録し、筋トレや歩行練習などのリハビリにも励んでいるが、心が折れそうになることもある。家族や医療者との関係性を大切にしながら治療を続けることが、大切だと思っている。

「年齢もあり、毎日トレーニングをしないと体が衰えて、できていたことができなくなっていく。いかに衰えをゆっくりにするか、維持していくかが、生きる中心になっている」

(1)胃腸の過敏-①空腹、②排便、③薬吸収時に腸ムズムズ、ふらつき 2.朝夕の疲れ寝不足-①薬切れ②エネルギー切れ③高血圧(一時・1日)		(1)胃腸の過敏-①空腹、②排便、③薬吸収時に腸ムズムズ、ふらつき 2.朝夕の疲れ寝不足-①薬切れ②エネルギー切れ③高血圧(一時・1日)	
基本 3/28(±)	A 3/28(2)	B 3/28(2)	基本 3/28
1.ストレッチ (ラジオ体操) ✓	1.ストレッチ(RA)	1.ストレッチ(RA)	1.ストレッチ (ラジオ体操) ✓
2.歩行 17分 / 周	2.足腹筋	2.腕振足踏み 50	2.歩行 分 周
3.ストレッチ (S)	開き	3.スクワット	3.ストレッチ (S)
①骨盤 10	縦・横	1) 同・椅子	①骨盤 ②上体捻り
②上体捻り	足踏み	2) 同・低 10+10	縦・横
③踵上下	3.腹筋 縦	4.足バランス 4	足踏み
④肩甲骨 4	捻り	5.口顔舌運動	⑤首背筋 ⑥股関節
⑤首背筋 ⑥股関節	4.四足歩行	6.腹式呼吸	3.腹筋 縦
4.腰痛体操	5.首下半身上げ	7.体幹弓なり床	捻り
5.体幹 10分×6	クッション挟み	8.サイドステップ	4.四足歩行
6.腿上げ・腕上げ			5.首下半身上げ
7.脹脛 / 膝関節 ✓			6.腿上げ・腕上げ
血圧) 7:30	8:45	20:0	血圧) 10:00
120-101-81	120-82-88	115-72-55	118-102-82
139-91-60	102-81	98-78-72	149-99-80
130-91-60	118-87-77	107-78-75	144-98-78
131-92-60		④ 118-61-73	
		(便) 8:15	(便) 8:30
		体重)	体重)

2026. 3.2 (月)	パーキンソン病	パーキンソン病2次基準	2026. 3.3 (火)	パーキンソン病	パーキンソン病2次基準
---------------	---------	-------------	---------------	---------	-------------

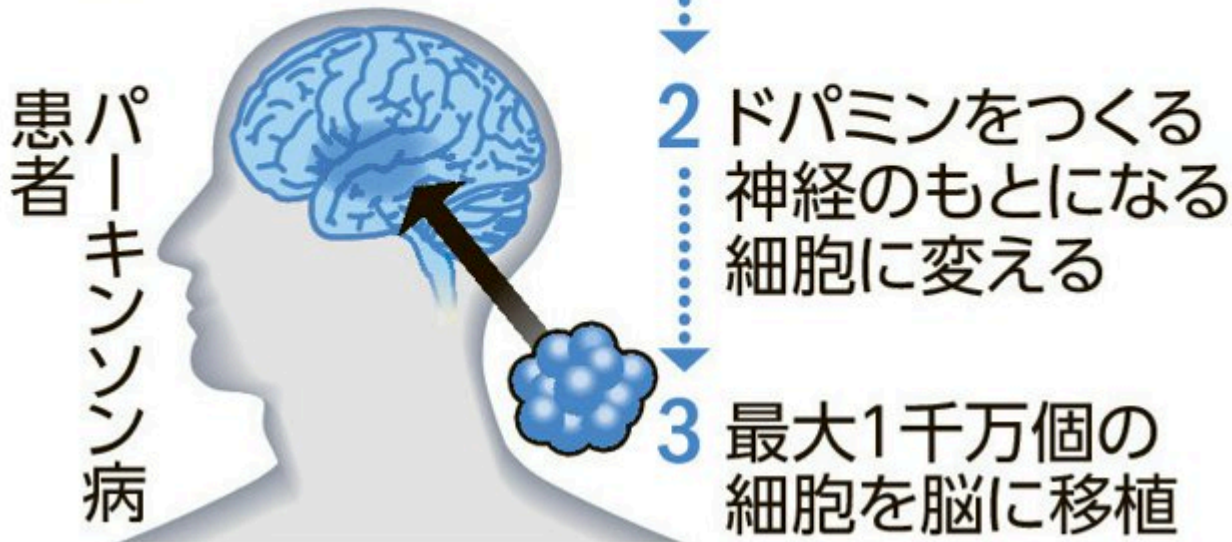
男性は毎日の体調やリハビリの状況を、自分で作った日誌に記録している=男性提供 

## 世界初の実用化「ほんのわずかな希望」

そんななか、iPS細胞をつかった治療法が実用化されるというニュースを聞き、関心を抱いている。

承認された住友ファーマの「アムシエプリ」は、iPS細胞からドパミンをつくる神経のもとになる細胞をつくり、それを患者の脳に移植する。薬が効きにくくなった患者が対象だ。移植した細胞が新たにドパミンをつくり、症状を改善すると期待されている。ただ、条件・期限付きの承認のため、誰でも受けられるわけではない。販売後の7年間でわずか35人の患者にしか移植されない見通しだ。

# iPS細胞を使った パーキンソン病の 治療のイメージ図



iPS細胞を使ったパーキンソン病の治療のイメージ

自分が治療を受けられるか分からないし、病気そのものを治す根治療法ではない。それでも、新しい治療法が実用化されることに、ほんのわずかでも希望を見いだしたいという気持ちもある。

「このまま病気が進んでいくのではないかという不安を抱えながら、前向きに頑張って生きていくのはとても難しい。落ち込みそうになる自分の気持ちを支えて、病気と向き合うための何かしらの心の支えの一つにしたい」

1) パーキンソン病と同病で知られている薬物胃腸の過敏症が繰り返していると考えた。→2025年12月20日現在  
現在の症状は朝の排便、朝食時の胃腸の動きは、下りの排便時ように激しく胃腸を動かす、排便も困難としている。

②空腹時の胃の動きも異常といえるように胃が空腹を訴え激しく動く。

①、②の症状により日常生活に困難をもちかしている、→改善が必要

2) これまでの服薬の経過から胃腸薬とドパミン（パーキンソン病の薬）の影響が考えられる。→基本としてはパーキンソン病の症状と見られる。

男性はパーキンソン病の治療で薬をのんだ後に感じたことなどを記録している。診察時には、気になることをまとめた紙を医師に渡しているという=男性提供

## この記事を書いた人



神宮司実玲

くらし科学医療部 | 医療  
担当

+ フォロー

専門・関心分野

医療、健康

## 関連トピック・ジャンル

ジャンル

[医療・健康・介護](#) | [医療](#) [病気](#)

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.